

※各問の出典の記入は自由とする。

問一 枠内の漢詩を、楷書か行書で調和よく書きなさい。(形式は縦・横自由)

春望  
杜甫

国破山河在  
城春草木深  
感時花濺淚  
恨別鳥驚心  
烽火連三月  
家書抵萬金  
白頭搔更短  
渾欲不勝簪

春望  
杜甫

国破れて山河在り  
城春にして草木深し  
時に感じては花にも涙を濺ぎ  
別れを恨んでは鳥にも心も驚かす  
烽火三月に連なり  
家書萬金に抵る  
白頭搔けば更に短く  
渾て簪に勝えざらんと欲す

問二 枠内の漢詩の書き下し文を、原文のまま行書で調和よく書きなさい。

(ふりがなは書かないこと) (形式は縦・横自由)

友人を送る  
李白

青山北郭に横たわり  
白水東城を遶る  
此地一たび別れを為し  
孤蓬万里に征く  
浮雲遊子の意  
落日故人情  
手を揮つて茲より去れば  
蕭蕭として班馬鳴く

送友人  
李白

青山横北郭  
白水遶東城  
此地一爲別  
孤蓬萬里征  
浮雲遊子意  
落日故人情  
揮手自茲去  
蕭蕭班馬鳴

問三 次の短歌を、調和よく短冊の形式に散らし書きしなさい。漢字は仮名に変えてもよい。

(連綿や変体仮名をいくつか使いました)

うすべにに葉はいちはやく萌えいでて咲かむとすなり山桜花

(若山牧水の歌)

問四 次の字句を、筆ペンを使って、楷書と行書で書きなさい。

御祝	御霊前	御見舞
御礼	御祝儀	御中元
寸志	御歳暮	記念品